

令和3年度北海道アレルギー疾患医療連絡協議会

協議事項 2：今後の北海道のアレルギー疾患対策について

1 主な課題

令和元年度に道が実施したアレルギー診療実態調査を踏まえ、下記の課題が挙げられる。

- (1) アレルギー専門医については、札幌圏に大半が集中しているため、道北圏やオホーツク圏など他の医療圏における専門医の育成が必要であること。
- (2) アレルギー疾患対応について、医療機関同士の連携の強化、検査、治療等に関する情報の共有を図り、患者の治療方針等を効率的かつ効果的に定めることができる医療体制を構築することが必要であること。

2 今後の対策の方向性（案）

下記により、アレルギー疾患に係る医療・情報提供体制の構築を目指す。

- (1) 北海道は広域であり、各地域のニーズに沿った、きめ細やかな医療サービスを提供するため、拠点病院と一般病院との診療連携体制の整備に向け、拠点病院をサポートする協力病院を新たに設ける。
- (2) 協力病院は、拠点病院に準じて、アレルギー専門医育成のノウハウや医療機関同士の連携強化の基盤がある程度見込まれる大学病院や主要な総合病院とし、三次医療圏に1か所以上とする。
- (3) 拠点病院と協力病院とが連携の輪を広めていくことで、専門医育成の研修等や各医療機関が得意とする検査、治療等に関する情報の共有や発信、効率的かつ効果的な患者の紹介・受入等診療連携が可能となる医療体制を構築する。

※各医療機関の取組（例）

○拠点病院

- ・「アレルギー総合情報サイト」の立上げによる情報提供体制の構築
- ・各医療機関の情報（対象疾患や可能な検査・治療等）の集約化
- ・関係機関との連携によるアレルギー専門医育成の研修会等の実施
- ・学校教育関係者や患者等に役立つ情報（エピペンの使用方法など）の収集や発信

○協力病院

- ・対象疾患や可能な検査・治療等に関する拠点病院への情報提供
- ・関係医療機関同士での情報共有や患者の紹介・受入等診療連携

3 2を踏まえた北海道のアレルギー疾患医療提供体制（案）

下記イメージ図のとおり。

